

(21) チンゲンサイ

ア 各病害虫の防除

白さび病

軟腐病

根こぶ病

アブラムシ類

アオムシ

コナガ

マメハモグリバエ

ア 各病害虫の防除

【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

白さび病

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病初期に薬剤を施用(散布)する。

軟腐病

(耕種的・物理的防除)

- 1 3～4年間イネ科、まめ科の作物を作付ける。
- 2 降雨直後に農作業をしない。
- 3 病株は見つけ次第取り除く。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 微生物殺菌剤は発病前から予防的に処理する。
- 2 発病が予想される場合は薬剤を施用(散布)する。
- 3 根や地際を害する害虫(ナメクジなど)を防除しておく([共通防除の章の共通病害虫の防除「ナメクジ・カタツムリの防除」](#)を参照)。

根こぶ病

- ・[共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項\(根こぶ病菌によるあぶらな科野菜根こぶ病防除\)](#)を参照する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 発病歴のないほ場を選定する。
- 2 連作を避け、あぶらな科以外の作物と4～5年以上のサイクルで輪作する。
- 3 発病ほ場では抵抗性品種を作付ける。
- 4 遊走子が根に感染するためには水が必要であるため、ほ場の排水を良くする。
- 5 水稲後作では高さ20～30cmの高うねとし、うね内の停滞水をなくす。
- 6 地温が18℃以上で発病するため、は種時期や定植時期を調整する。
- 7 pH7.2以上では発病が抑制されるため、土壌pHを矯正する。
- 8 罹病残さから休眠胞子が拡散するため、発病株は早期に抜き取り、ほ場外に持ち出して処分する。
- 9 発病ほ場から耕うん機等を移動する際には、機械に付着した休眠胞子を取り除くため、土をよく払い落とし、丁寧に水洗する。
- 10 ほ場内のあぶらな科雑草も伝染源となるため、除草を徹底する。
- 11 地床育苗する野菜では、4～5年間あぶらな科作物を栽培していない、排水条件の良い場所に、は種床を設置する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 土壌消毒する([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。
- 2 発病が予想される場合には薬剤を処理する。

アブラムシ類

(予防に関する措置)

- 1 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 2 無寄生苗を使用する。
- 3 施設栽培においては、防虫ネット、紫外線除去フィルム、光反射資材によるマルチ、粘着シート等の活用により、施設内への侵入を防止する。
- 4 有翅(し)虫の飛来を防止するため、光反射資材によるマルチ若しくはシルバーテープ又は風上方向に防風垣若しくは防風ネットを設置する。

(判断、防除に関する措置)

- 1 生物農薬を活用した防除を行う。
- 2 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 3 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

1 生物農薬を予防的に散布する。

※天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。

※アブラムシ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。また、アブラムシの種類と天敵の組み合わせによっては、効果が認められない場合がある。

2 気門封鎖剤を散布する。

3 抵抗性の回避のため、異なった群から薬剤を選びローテーション散布を行う。作物や剤型、使用方法等によって異なるので、ラベル等で各薬剤の登録内容をよく確認してから使用すること。特に複数の剤型や使用方法で登録のある薬剤は、総使用回数に留意する。

アオムシ

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

1 生物農薬を散布する。

2 発生が予想される場合には、薬剤を施用(散布)する。

コナガ

(予防に関する措置)

1 防虫ネット等の使用により、成虫の飛来及び産卵を防ぐ。本虫に対しては、1mm×1mmの目合いで効果が高い。

2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。

3 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆を行う。

4 交信かく乱剤を活用した防除を行う。

5 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。

(判断、防除に関する措置)

1 卵や若齢幼虫が寄生している葉を見つけ次第、除去する。

2 生物農薬を活用した防除を行う。

3 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。

4 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。

5 作物残さを適切に処分する。

(耕種的・物理的防除)

1 発芽直後から寒冷紗をべた掛け又はトンネル被覆する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

1 交信かく乱剤を活用する。

2 生物農薬を予防的に散布する。

3 発生が予想される場合には、薬剤を施用(散布)する。

※コナガは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避け、数群でのローテーション散布を行う。なお、既に抵抗性の発達している薬剤も認められるが、その程度は地域により差があるため、実際の使用状況から推測して薬剤を選択する。

マメハモグリバエ

・[共通防除の章のハモグリバエ類の防除の項](#)を参照する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

1 発生が予想される場合には、薬剤を施用(散布)する。